



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター：認定コースのご案内
Author(s)	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター事務局
Citation	2015年度
Issue Date	2015
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58199
Type	book
File Information	MuseumMeister_2015_web.pdf



GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

MUSEUM MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp



2015年度

- 01 ミュージアムマイスターが人類を救う
- 02 ミュージアムマイスター
認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集
「マイスターに聞いてみよう!」
- 08 登録申し込みについて

ミュージアムマイスターが 人類を救う

平成21年度より総合博物館で「HOKUDAIミュージアムマイスター」認定コースが始まり、今年度で7年目です。これまでに認定されたマイスターは24名のみ。どれだけ厳選された人材かが分かるでしょう。

専門の学部教育に至る縦割り教育に、北大の教育理念である「全人教育」と「実学の重視」のキーワードで横串を入れた教育プログラムです。

専門教育のみの知識偏重に陥り、社会規範や倫理観を軽視するような教育は、反社会的な行動に走る者たちを生産することになりかねません。「全人」とは「理知的でクールな頭脳、胸に秘めた熱い情熱、現場を駆け巡る脚力、そして肝の据わった胆力（肝臓力）を持った人物」です。机上の空論を廃し、実際のもの・体験に基づくことで「全人」は育まれます。このような人物こそ、地球環境問題やテロリズムの拡散といった時代にあって存亡の危機に立った人類を救うことができます。

一人でも多くの新入生、学部生・大学院生が、この認定コースにチャレンジして「全人」を目指すことを期待します。



北海道大学総合博物館 教授
高橋 英樹

ミュージアムマイスター
認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

●受講方法

下記の通り科目種別（A～D）の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目
（総合科目、一般教育演習、主題別科目）
高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目
他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。（履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。）

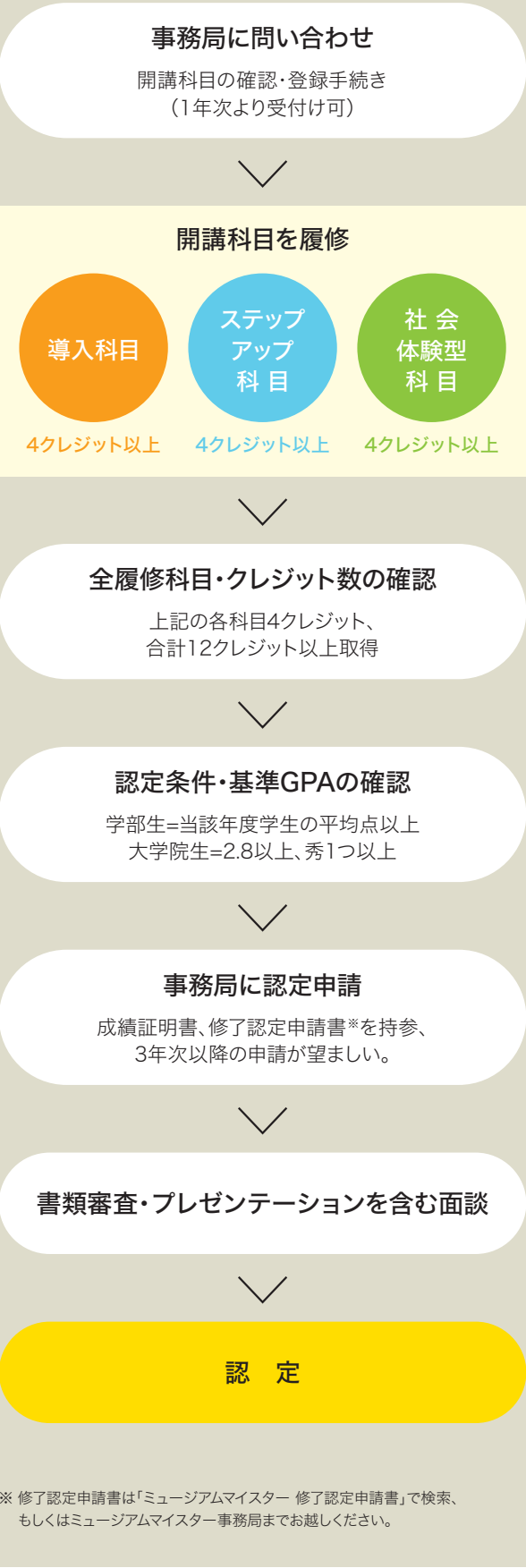
C 大学院専門科目・大学院共通授業科目
学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。（マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。）

D オフカリキュラム・プログラム
通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

●認定までの流れ



開講科目一覧

●下記の科目情報は平成27年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時限についてはシラバスも必ず確認してください。

	科目種別	授業名	学期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
導入科目	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1学期	水曜(5)	柁原 宏	1
	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1学期	金曜(5)	四ツ倉 典滋	1
	A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2学期	木曜(5)	山崎 幸治	1
	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1学期	木曜(5)	江田 真毅	1
	A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と人間: 植物学入門	1学期	木曜(5)	高橋 英樹	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と歴史	1学期	金曜(5)	高橋 英樹	2
	B 文学部専門科目	博物館概論	1学期	水曜(1)	佐々木 亨	2
	B 文学部専門科目	博物館教育論	1学期	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
	B 文学部専門科目	博物館資料論	1学期	金曜(5)	加藤 克	2
	B 文学部専門科目	博物館経営論	2学期	火曜(5)	佐々木 亨	2
ステップアップ科目	B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1学期	水曜(5)	高橋 英樹	2
	B 文学部専門科目	博物館展示論	2学期	金曜(5)	山崎 幸治	2
	B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1学期	火曜(5)	鈴木 幸人	2
	A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒゲマ学入門	2学期	水曜(5)	増田 隆一	1
	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	地域と大学 北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ	1学期	集中	荒木 肇	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	遺跡を探そう	1学期	集中	加藤 博文	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1学期	月曜(5)	吉崎 元章	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] PMFの響き	1学期	木曜(5)	三浦 洋	2
社会体験型科目	A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1学期	水曜(2)	北村 清彦	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か: 進化・歴史・文化	2学期	月曜(5)	加藤 博文	2
	B 文学部専門科目	北方人類学演習: フィールドワーク実践 [15]	1学期	火曜(3)	佐々木 亨	2
	B 水産学部専門科目	水圏生物学	1学期	火曜(3~4)	今村 央	2
	B 水産学部専門科目	魚類学	1学期	火曜(2) 金曜(3)	矢部 衛	2
	B 水産学部専門科目	ベントス学	1学期	火曜(2) 金曜(3)	五嶋 聖治	2
	B 水産学部専門科目	水族館学	1学期	水曜(3~4)	河合 俊郎	2
	C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [15]	2学期	火曜(3)	佐々木 亨	2
	C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義Ⅰ: 学術標本・資料学	2学期	金曜(5)	高橋 英樹	2
	D 総合博物館・オフカリキュラム	バラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
社会体験型科目	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)	1学期	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)	1学期	集中	藤田 良治	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)	2学期	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価				
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)	2学期	集中	藤田 良治	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣				
	C 大学院共通授業科目	南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー	1学期	集中	揚妻 直樹	2
	D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
	D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	1月中旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

開講科目の紹介

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。
博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイス・先住民研究の現在
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」＝北大総合博物館

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門
- ・北大エコキャンパスの自然と歴史

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。
博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講義をします。今年度は鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団総合研究センター研究第一課長の佐藤圭一氏、おたる水族館魚類飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●パラタクソノミスト養成講座

パラタクソノミストとは「準分類学者」と訳し、学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者を意味します。本講座は、標本の作り方・ハンドリングの仕方・管理方法・研究方法等を学び、生物学、地球科学、考古学分野等の専門家をサポートする人材の養成を目的とした、市民も受講できる講座です。大学生・大学院生の教養教育として、博物館ボランティアのスキルアップとして、学芸員・教員・自然観察指導員等のリカレント教育として現在利用されてきています。講座は初級から始まり、その後分野によっては中級・上級が開講され、より専門的な内容を学ぶことができます。これまでに、昆虫、岩石、鉱床、化石、木製品、魚類、土器、石器、哺乳類、海藻といった分野が開講されました。講座の開催は不定期ですので、北大総合博物館ウェブサイトで確認してください。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] ヒグマ学入門

全学教育科目(一般教育演習)

- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[1]
- ・フィールド体験型プログラム—人間と環境科学—[2]
- ・地域と大学
北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ
- ・遺跡を探そう

全学教育科目(主題別科目)

- ・[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界
- ・[芸術と文学] PMFの響き
- ・[芸術と文学] 美術館という現場
- ・[歴史の視座] ヒトとは何か：進化・歴史・文化

文学部専門科目

- ・北方人類学演習：フィールドワーク実践 [15]

水産学部専門科目

- ・水圏生物学
- ・魚類学
- ・ベントス学
- ・水族館学

文学研究科専門科目

- ・北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネージメント [15]

大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

総合博物館・オフカリキュラム

- ・パラタクソノミスト養成講座

社会体験型科目

博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換したりするなど、学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)

大学院共通授業科目

- ・南紀熊野の森林から地域を考える —原材料採取から商品開発まで—
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣

総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部 of 学生が、4年間の研究の成果について大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを作成し、わかりやすく説明することが求められます。事前に中間発表会を行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎準備段階で他分野の学生や教員にポスターを見ていただいたことで、自分では気が付かなかった情報の過不足を修正しながら制作することができました。多様な視点を共有でき、研究に直接反映させられたことが一番の成果でした。

◎聞き手にとつての分かりやすさを意識し、当日も要旨を正しく伝えるために聞き手の反応を受けて工夫する対話の必要性を感じました。優れた研究成果や技術も、聞き手との人間的な意思疎通があって初めて有意義な情報として伝わるのだと、改めて考えさせられました。

◎市民の方々へ向けて発表したことは、とても貴重な経験になりました。年代や職業の異なる多くの方と話をすることはとても楽しく、また、全ての研究テーマの先には個々の実生活があるのだと忘れてはならない点も、大いに学ぶことができました。

◎研究の独自性や成果だけではなく、その研究の面白さや社会的な位置付けを伝えなければならないことが難しい点でしたが、限られた範囲のなかで必要な情報をこくシンプルにまとめてあげるといふ、発表の場に共通する大切なスキルを学べました。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：「イザベラ・バードの旅の世界」展の展示解説／「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」展の展示解説／水産科学館土曜サロンの運営／卒論ポスター発表会の運営 他多数



参加者の声

「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」展の展示解説

◎展示室に常駐する形式の展示解説は初めてに近い経験で、初めは上手く対応できず監視員に近い存在でしかありませんでした。しかし、先生方や解説経験者からのアドバイスを対処法へと組み入れることで、自分なりの展示解説を確立させることができました。今回参加したことで得た大きな経験を、今後活用していきたいです。

卒論ポスター発表会の運営

◎ポスターやリーフレットのデザイン、会場レイアウト作りと初めての経験ばかりでした。それまで複数人で何かを運営するという経験をしたことがなく、うまくこなせるのか不安もありましたが、素晴らしいメンバーに恵まれ、彼らの助けもあって楽しく作業することができました。協力しあうことの大切さや、協力してこそできるクオリティの高さを知ることができました。

マイスターに 聞いてみよう！



卒業生マイスターからの message



石原 亘 (2010年度農学院修士課程修了)
(協)オホーツクウッドピア (物林株式会社より出向中)

農学院博士課程1年次にマイスターに認定

「知の交差点」へ踏み出そう！

ミュージアムマイスターの取得を目指したのは、大学院に進学する頃で、他のマイスターの方々に比べると遅いスタートだったように思います。私が北大総合博物館の活動に興味を持つようになったのは、ミュージアムショップで店員のアルバイトをしていたことがきっかけです。「バイト先のことくらい、ちょっと知っておこうかな」という軽い気持ちで、総合博物館主催のバラタクソノミスト養成講座や市民セミナーを受講するうちに、博物館の魅力にどっぷりとハマってしまいました。

総合博物館はサークルとも学会とも異質の、新鮮で刺激的な出会いと交流の場所です。ここでの研究や教育などの活動は、高名な教授陣、文理問わず各学部から集う学生、職業も年代も全く異なるボランティアスタッフ、来館者の方々に支えられています。つまり、総合博物館は多様なバックグラウンドを持つ知性が収束して発散していく「知の交差点」なのです。このような場所は、社会に出ても滅多に見つけられるものではありません。

私は現在、構造用集成材(木材の板を貼り合せた建築用材料)の製造と加工を行う工場で勤務しています。北海道内で同種の工場が少ないこともあって、業界はもとより官公庁や学校からも多くのお客様が見学のために来場するのですが、ご案内の際にはミュージアムマイスターコースでの実習講義(展示解説など)での経験が思い出されます。社会人になると研究職であれ営業職であれ、「あらゆる立場の人に分かりやすく何かを伝える」ことが重要になってくると思いますが、総合博物館という交差点に少しでも身を置いてみると、知らないうちにそうしたスキルが身に付いていくのだと実感します。

…さて、最後にですが、この冊子を手に入れているあなたはラッキーです。せっかく、北大にこんな素敵な場所があるので、活用しない手はありませんよ。ミュージアムマイスターの取得を目指しながら、ミュージアムマイスターコースの活動に携わってみてください。他では得難いものが見つかると思います。



長田 詩織 (2013年度理学院修士課程修了)
株式会社博展 イベント展示会事業部

理学院修士課程2年次にマイスターに認定

ようこそ、学生が情報発信する博物館へ！

「北大総合博物館の雰囲気が好き。」私のミュージアムマイスターコース受講のきっかけは、とても些細なことからでした。ギシギシと軋む低い段差の木の階段や、年代物の資料が収まる収蔵庫の匂い、旧理学部棟だったという古めかしい外観に一目惚れして、大学1年生の時に、博物館の講義を受講し始めました。大学1年生の頃に受けた講義で今でも覚えているものがあります。「今、大学博物館が面白い！一物にこだわる科学ー」という講義で(講義名のネーミングに惹かれたのも受講の理由です)、博物館に所属している先生方がオムニバス形式で登壇し、考古学や海藻学などそれぞれの分野についてお話して下さいました。その中でも一番心惹かれたのが、博物館の展示運営などについて紹介される回でした。その時、初めて博物館学という存在を知ったのです。学術資料の情報を展示空間で如何に伝えるか、情報の見せ方や作り方に興味がわき、博物館は資料の保管や収集だけでなく、情報発信の場でもあると気づくきっかけになりました。

マイスターコースの中では、「コミュニケーション」を求められる講義が幾つもあります。卒業ポスター発表会では来館者に自分の研究成果を伝え、質疑応答します。博物館コミュニケーション特論などでは、自分たちでイベントを企画し、参加者と交流します。私は博物館の看板を作るという企画を立て、デザインや企画書の作成だけでなく、外部の施工業者と見積のやり取りを行いました。看板自体は実現できませんでしたが、博物館という、常に学外の人に関われた場所を使って、学生たちで企画や提案をすることが面白く感じました。

私は現在、展示会やショールームなど、イベント企画や空間デザインを行う会社で、営業企画として働いています。空間全体の提案を行う仕事は、博物館での学びや経験の延長線上にあるように思います。また、いつかは博物館を作る仕事に携わりたいと考えています。北大に博物館があったことや博物館の授業を受けたことが、今の自分につながっているのかもしれない。

在校生マイスターからの message

在校生が語るマイスターの魅力

木野 瑞萌

理学院修士課程1年



理学部4年次にマイスターに認定

私は小さい頃から博物館が好きでした。もともと生物が好きということもあり、以前から博物館が主催するバラタクソノミスト養成講座を受けていました。大学2年生でミュージアムマイスターコースの存在を知り、博物館についてもっと深く知りたい、関わりたいと思い、受講を決めました。

マイスターコースでは、大学の授業や博物館主催の講座の他に、展示解説や展示制作、展示やイベントの企画といった、普段の学生生活では味わえないような体験ができます。そこでは、先生方の指導のもと、様々な学部や専攻の学生が協働して主体的に活動に取り組むことが求められます。私の受験時は総合入試でなかったため、理学部以外の人と交流する機会はサークルくらいでしたが、マイスターコースに参加することにより、文系、理系を問わず多くの分野の学生と知り合うことができました。彼らとのグループワークによって一つのプロジェクトを遂行したことで、自分なりに、受講する前よりも成長することができたのではないかと感じています。また、活動を通して、博物館に来館される市民の方々と交流する機会が得られます。学生による企画や展示、解説を市民の方々が喜んで下さると、大変嬉しく、達成感も得られました。

マイスターコースの一環として博物館でさまざまな活動に取り組むことで、自分の専門分野だけでは知り得ない知識も得ることができましたし、何より専門分野の異なる多くの人と交流することができ、とても楽しく、貴重な体験ができました。

日本の全ての大学に博物館があるわけではありません。少し足を伸ばせばいつでも博物館を見ることが出来る環境を利用して、深く博物館に関わってみてはどうでしょうか。

久保田 彩

理学院修士課程1年



理学部4年次にマイスターに認定

私がミュージアムマイスターコースに登録した理由は、学部1年生の時、博物館で学んでみたいと思ったからです。入学後初めて訪れた総合博物館には、見たことのない不思議な標本が並び、博物館というものに興味を持ちました。

ミュージアムマイスターコースでは、特に2つのことが印象に残っています。まず、分野を問わず様々な学問に触れたことです。「学芸員から見た美術の世界」では、市内を巡り野外彫刻を評価したり、芸術の森美術館で作品を鑑賞したりしながら、美術のとらえ方について考えました。「バラタクソノミスト養成講座」では、興味の赴くまま、石器、鉱物、きのこといった様々な講座に参加し、実物を手にとりながら分類方法を学びました。もう一点は、伝え合う楽しさを知ったことです。学生参加プロジェクトの「展示解説」では、標本をもとに来館者の方と疑問や経験を共有し、展示がこれまでに全く違って見えるようになりました。

ミュージアムマイスター認定後には、鈴木章先生と小学生が実験を通して交流するイベント「サイエンスパーク」の司会を務めました。かつて、自分も科学教室での初めての体験にわくわくした記憶があります。参加する小学生にも、何かのきっかけとなれば、という思いを持って取り組みました。

大学では、興味を持った分野について学び、未知なるものの解明に向かって研究を進めています。博物館は、時代や分野を超えた研究の蓄積に触れ、多様な人と出会い、今まで考えてもいなかった世界を知ることができる場所です。進む分野に悩んでいるという人も、もう決めているという人もいます。積極的にいろいろな人や物事に関わる中で、きっと、新しい世界が見えてくると思います。

山内 彩加林

水産学部2年



水産学部2年次にマイスターに認定

ミュージアムマイスターコースでは、学部の勉強に関わらず沢山の経験を積むことができます。社会体験型科目の一つである「展示解説」では、解説内容と来館者への対応方法について先生から丁寧なアドバイスを受けたり、勉強会に参加したり、楽しみながら解説に必要な知識を身につける機会が設けられており、安心して解説に臨むことができました。また「卒論ポスター発表会の運営」では、ポスターやリーフレットの制作、表彰式の司会進行等を担当しました。発表者の活躍を後押しし支えることに繋がる活動を、先生方の指導を受けて仲間と協力して取り組む過程は、ここでしかない体験でした。

マイスター認定後はノーベル化学賞を受賞された鈴木章先生と小学生の実験交流イベント「サイエンスパーク」の司会等、これまでの活動から学んだことを活かして活躍できる場を提供していただいております。今後も様々な活動に励みたいと思っています。

マイスターコースでは同世代の学生に限らず、異なる世代の方と幅広く交流する機会を得ることができます。先生方、博物館ボランティアの方、そして同じ活動に共に取り組む仲間…私にとってはかけがえのない繋がりを沢山いただきました。多くの人と関わり、いろいろな見方を知る中で自分自身の新しい一面も開拓していく、そんなことができるコースだと実感しています。

私がマイスターコースの存在を知り、興味を持ったきっかけは、このリーフレットでした。博物館に興味がある人、人と関わりたい人、何かに熱中したい人、様々な人がいると思いますが、貴重な学生生活のなかで今までにない新しい体験を試みるのはいかがでしょうか。きっと、自分の世界が広がる、とても充実した時間を過ごすことができると思います。

登録申し込みについて

北大総合博物館のウェブサイト

(<http://www.museum.hokudai.ac.jp/education/index.html>)

からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、

必要事項を記入してください。

※注意事項

黒のボールペン、またはサインペンではっきりと記入してください。

書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

ミュージアムマイスター認定コース

登録申込書



ミュージアムマイスター事務局 行

整理番号

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ ホク ダイ タ ロウ

氏名 北大 太郎

〒 060-0810 フリガナ サッポロシ キタク

札幌市北区

連絡先住所 キタ 10 ジョウ ニシ 8 チョウメ ホッカイドウダイガク

北10条西8丁目 北海道大学

申し込み年月日 平成 27 年 4 月 20 日

生年月日 昭和・平成 6 年 12 月 1 日

性別 ☒ 男 ☐ 女

学部・学年 文学部 1 年

学生番号 00000000

電話番号 011-706-4704

メールアドレス
taro@museum.hokudai.ac.jp

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。

既に履修した科目＝◎ 現在履修している科目＝○

専ら科目	ステップアップ科目	社会体験科目
〔環境と人間〕 生物の多様性	◎ 〔環境と人間〕 ヒグマ学入門	博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発表型プロジェクトの企画・実施・評価
〔環境と人間〕 フィールド科学への招待	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ーⅠ	博物館コミュニケーション特論 (学生発表型プロジェクトの企画・実施・評価)
○ 〔人間と文化〕 アニマ・先住民研究の現在	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ーⅡ	博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣
〔環境と人間〕 「モノノコト」+「ヒト」=北大総合博物館	地域と大学 北大フィールドセンター施設を 活用して地域を学ぶ	博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)
北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門	運動を探そう	○ 博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価
北大エコキャンパスの自然と歴史	〔芸術と文学〕 芸術賞から見た美術の世界	博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
博物館概論	◎ 〔芸術と文学〕 PMFの書き	博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣
博物館教育論	〔芸術と文学〕 美術館という現場	○ 博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)
博物館資料論	○ 〔歴史の視座〕 ヒトとは何か：進化・歴史・文化	南紀熊野の森林から地域を考える ー原材料採取から商品開発までー
◎ 博物館経営論	北方人類学演習：フィールドワーク実践Ⅰ[15]	学生参加プロジェクト()
博物館情報・メディア論	水圏生物学	卒論ポスター発表会
博物館展示論	魚類学	
博物館資料保存論	ペントス学	
	水族館学	
	北方文化論特殊講義： ミュージアムのマネジメントⅠ[15]	
	博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学	
	パラタク/ミニスト養成講座	

システム管理者記入欄 認証年月日 平成 年 月 日 登録番号

科目名の左側の欄に、該当する
マークを記入してください。
該当する科目がない場合には、
未記入でも構いません。

既に履修した科目=◎
現在履修している科目=○



北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室

TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)

開室日時:火～金 10:00～16:00

(改装中～2016年6月末予定)

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、

ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。